

かいほつ 55号

題字 豊富小学校
6年 麦生田 真樹

岡崎市現職研修委員会
特別支援教育部会
(特殊学級担当者部会)

平成18年12月8日 発行



四九市のお兄さんお姉さんと、仲よし！(羽根小)

「こうちよう先生、お元気ですか。ぼくは元気です。おしごとがんばってね。」



心を結びつける「ゆりのき郵便」

岩津小学校長

安藤 真好

校長室に設置してある郵便受けに、今日も一枚のはがきが届いている。ゆりのき郵便局さんが、配達してくれたのである。はがきには、文章だけでなく、私の笑っている似顔絵も添えられている。心のこもった一枚のはがきを見つめていると、日々の疲れも癒されていく。

今年の五月、ゆりのき学級の四人の子たちが、「ゆりのき郵便局」を開局した。ゆりのき学級の教室の前には、手作りの大きな郵便ポストが登場し、学校の各教室には郵便受けが付けられた。手作りの切手やはがきも販売された。子供たちは、決まった時間にポストから郵便物を取り出し、消印を押し、配達先の郵便番号が記された整理だなに郵便物を分け、各クラスに配達していく。活動は、四人の個性や能力がうまくかみ合うように担任が分担し、支援しながら行われている。

ゆりのきの子供たちの呼びかけは、全校児童に大きな反響があり、教職員も参加していった。初めは時間がかかっていた活動も手際よく行えるようになり、届けた相手の「ありがとう」の言葉に、ゆりのきの子供たちはいっばいの笑顔で応じている。届けられたはがきは、「真心の贈り物」として、一人一人の宝物となっている。

特別支援教育は、学級の中の支援の必要な子とそうでない子が、かかわりを密にしていくことを目指している。特殊学級の子らが、同じ学年の間たちの中へ自然に溶け込んでかわっているかどうかで、学校の特別支援教育の浸透ぶりが察せられる。学年の親学級と特殊学級が相互に理解や配慮を合っていくことが大切と考える。

特殊学級は学校の「くさび」である。本校のゆりのき郵便局の活動が、学校全体の子供たちの心を結びつけたように、外から見えにくい特殊学級の活動を、学校教育の一番大事な部分できらりと光らせたい。

各ブロック活動一覧

北	親子でバーベキュー大会
葵・城北	模擬店、レクなど
甲山	親子参加のスポーツ
美川	デイキャンプ
東海・額田	模擬店
南・福岡	音楽であそぼう
竜海	なかよしまつり
竜南	ゲーム、収穫した野菜を食べよう
六ツ美・六ツ美北	模擬店
矢作・矢作北	レクリエーション、学校ごとのお店屋さん

今年度も十のブロックに分かれてブロック交流会が行われました。ブロック交流会は、ブロック内の子供と親が一堂に会し、交流を深めることを目的とし、ブロックの学級担当教師が話し合いを重ね、企画・運営を行っていきます。模擬店、ゲーム、デイキャンプ等の中で、子供たちが活躍し、子供と親が生き生きと活動する姿が見られます。また、保護者同士の情報交換の場としても有意義な会が開催されています。今年度から額田地区も加わり、交流の輪が広がりました。

子どもと親の集い
ブロック交流会

「子供の声」

東海・額田ブロック

東海中学校 三年 星野幸幸

僕たちの店は「風船ヨーヨー祭り」です。十五個を楽しく作りました。店の中では、額田中ダーツが一番おもしろかったです。

「どうぞ。」

とやらせてくれました。マグネットのついた矢を六本貸してくれました。一回目から順に0点、十六点、四点、十六点、九点、二十点で、合計六十五点でした。飛行機と輪ゴムの発射機をくれました。

「また来てください。」

と額田中の人々がにこにこしていらっしゃいます。僕は、

「また来るね。」

ついでにえました。



ダーツのお店

「保護者の声」

北ブロック

大門小学校

都築 重之

毎年楽しみなブロック交流会

好天の中、北中学校でのバーベキューが行われました。今回の交流会は、ライオンズの方々のご参加もあり、子供たちと一緒に肉を焼いてくださり、準備から片付けまで共に過ごし、和やかな雰囲気で行われました。

息子は調理係になり、自分の嫌いな玉ねぎに涙を流しながらも楽しそうに皮むきしていた姿が印象的でした。普段会えない大勢の友達と楽しそうに活動していました。私たち親にとっても、このような機会にいろいろ話ができることは大変意味のあることです。

親子共にたくさんさんの刺激がもらえるこの交流会。来年もまた楽しみます。



「バーベキュー」大門小 5年 都築 雅俊

学級紹介

額田中学校



連合パフォーマンス「葵の紋」

本校は、全校二百八十名、山に囲まれた緑いっぱい学校です。わが五・六組は、今年三年生ばかりの五名です。一年生のときからずっと一緒なので、大の仲良し。学校行事には、交流学級の仲間と力を合わせ、楽しく参加してきました。額中の最大の行事は、額中祭。メインは合唱コンクールと連合パフォーマンスです。一組から三組までの縦割り連合での活動は、その中から上級生と下級生の心の絆が生まれます。わがクラスも、交流学級の仲間とともに合唱や連合パフォーマンスに取り組みました。放課や授業後にも一緒に練習しました。一人ひとりが自信を持って堂々と歌い、役割を果たすことができました。合唱コンクールでは惜しくも優勝を逃し、涙を流しましたが、連合では見事優勝し、みんな大喜びでした。

岡崎ライオンズクラブ

社会見学会

今年で四十二回目となる岡崎ライオンズクラブ主催の社会見学会が、九月二十日に行われました。額田地区の小学校も加わり、三十五校の児童二百九十八人が参加し、長久手町の愛・地球博記念公園（モリコロパーク）に招待されました。

現地では、水のエリア、風のエリア、森のエリアで自然体験型の遊具で遊び、楽しい一日を過ごすことができました。

行ってよかったモリコロパーク

藤川小 江坂 和樹

九月二十日に社会見学に行きました。出発式に出ました。ぼくは、ちかいのことばを言いました。「うまく言えたね。」とみんなに言ってもらえたのでよかったです。

モリコロパークにつきました。てんぼう台に行きました。とおくのけしきがよく見えたのでよかったです。べんとうを外で食べました。外であそびました。水あそびをしました。たくさん水あそびができてよかったです。チャレンジタワーの中であそびました。このように、楽しかった、うれしい、いろいろな

保護者の声より

男川小 伊藤 文字

子供たちが待ちに待った遠足の日がやってきました。モリコロパークへ行くという事で、みんなワクワクしていたと思います。ルールや注意事項をしっかり守って、楽しく活動することができました。

そして、家に帰ってきたら、たくさんのお話をお父さんや、私に聞かせてくれました。

最後になりましたが、子供たちにこのような機会を与えてくださいました岡崎ライオンズクラブの皆様、並びに関係者の方々、本当にありがとうございました。保護者を代表いたしまして、心よりお礼を申し上げます。



「モリゾー・キッコロとぼく」江坂 和樹

中学校から 修学旅行

章南中学校 杉山 一馬



新幹線内でウノをしている様子

僕は、修学旅行でドイツニーランドに行きました。ドイツニーランドでは、ビッグサンダーマウンテンに乗って楽しめました。僕は、家族にクッキーやキーホルダーのお土産を買いました。また、東京でうどん作りの体験学習もしました。

僕は六組の子たちと一緒に昼食を食べたり、ウノで遊んだりしました。電車の中でおやつを交換したり、たくさん会話をしたりしたことがとても楽しかったです。

みんなと色々な体験ができて、とても楽しい修学旅行でした。

難聴・言語教育研究 全国大会に参加して

三島小学校

田中 寿和

近年、コミュニケーションに特別な支援や配慮を必要とする子供が増え、障害も多様化しています。子供の実態をより一層把握し、個に応じた指導ができるような専門性を高めたいと考え、本大会分科会での提案を引き受けることにしました。

本学級は市内でただ一つの難聴学級です。聴こえにくいという障害の特性から、この四年間、「ことば」にかかわる部分にこだわって指導をしてきました。提案では、国語をはじめ、学校生活活すべての場面における具体的な支援の様子をビデオの映像を交えながら紹介しました。



手話通訳、要約筆記（OHP）を用いた聴覚障害者への配慮がされました。

学校紹介

半田養護学校桃花校舎

平成十八年四月、愛知県立半田養護学校の分校として開設された学校です。愛知県立桃陵高等学校の敷地内に校舎や運動場などの施設を共有しています。こうした環境の中、障害のある人もない人もともに教育活動に参加し、ノーマライゼーションの理念実現と、豊かな社会生活のための職業自立、社会自立を目指しています。

設置学科は普通科で、二年生からコース制になり、ものづくりコースと流通・サービスコースに分かれます。

(一) ものづくりコース
専門教育に関する教科として工業科の作業種目「窯業」「木工」を学ぶ。

(二) 流通・サービスコース
「商品管理」「販売」「清掃」「事務」「福祉」について学ぶ。

一年生で校内実習、二年生で職場体験実習、三年生で産業現場等における実習を年間計画に基づき実施されるそうです。

昨年度、岡崎からは男子一名、女子二名の生徒が受験し、今年春から三名の生徒が通学しています。現在は、一年生のみ二十四名が在籍しています。

進学を希望する生徒の新たな進路先が広がりました。

ぼく・わたしの おかざきっ子展

十月二十一日(土)・二十二日(日)、おかざき世界子ども美術博物館広場にて「おかざきっ子展」が行われました。

特殊学級に在籍する児童は、交流学級の中に入って取り組んでいるところが多数あります。

「森の中であいたいな」
山中小 6年 中村祐哉



「キラキラとんぼ」
小豆坂小 3年 秋場尚人



連尺小学校は、該当学年の作品と学級独自の作品を作りました。学級の作品は「ロボネット」です。



この「ロボネット」は、百円ショップの籠やペットボトル、食品パックを組み合わせて作りました。

いつもの中で

元緑丘小学校
山本 繁子

若いころからやらせてもらいたいと思っていた学級の担任、やっとなんが巡って来ました。それは、教員生活も終盤になってからのことでした。全く経験のない私にできるのだろうか、この年齢になってもできるのだろうか、不安はいっぱいでした。

たくさん失敗をし、先輩の先生に指導をしていただきました。二歩進んで三歩下がるのが繰り返して、試行錯誤の毎日でした。空回りし、自分の力のなさに涙したこともたびたびです。そんなとき救ってくれたのが、子供たちの笑顔です。真っ直ぐな瞳で見つめてくれた笑顔でした。そして交流学級の子供たち、親御さん、たくさん先生方の温かい協力をいただきました。二年、三年、四年と過ぎていきました。

目の前にいるこの子は、今、何をやりたいか、何に挑戦しようか、何を探りながら活動内容を組み立てました。そして、楽しく意欲的に活動できたときのうれしそうな姿が見られるようになりました。一日のうち、一時間のうちの成長を目の前で見られることは、私にとっても喜びになっていました。「教師冥利に尽きる」思いを何度させてもらったことか。私の宝物の六年間でした。

支えられて

元岩津小学校
今井 久子

三年間担当させていただきました。新一年生男女二人でのスタートでした。特殊学級の指導については勿論、情緒障害、自閉症などについて大した知識も無く担当してしまいました。児童の実態把握と指導法についての研修に努めました。驚きと困惑と発見の毎日でした。

そんな中、支えてくれたのは、プロックの特殊担当の先生方の指導法や教材などについてのアドバイス、校長先生の「ゆつくりやればいいよ」という言葉、また、教室によく来て一緒に遊んでくれた上級生、運動会や学芸会などの行事や音楽や体育の授業などで優しく迎えてくれた交流学級の先生や子供たち、協力的で一生懸命な保護者。そして、一番は毎日元気に登校する純真な子供たちでした。

三年たつて、子供の成長の素晴らしさに感動すると共にその成長の場に立ち会えた幸せを感じています。教えるということの意味の深さ、じっくりと粘り強く待つことの大切さ等、多くのことを学ばせていただきました。そして、人間の可能性を信じていることができた三年間でもありました。

